

第2回 野州市総合計画審議会（分野3専門部会）議事要旨

●日 時

令和7年7月4日（金） 13:30～15:35

●場 所

野州市役所 本館3階 第1委員会室

●出席委員

塚本 礼仁 委員

木村 靖 委員

清水 稔 委員

北中 良幸 委員

小島 朝子 委員

●市の出席者

【事務局】政策調整部（総合調整課）

【担当部局】環境経済部（地域経済振興課、農林水産課）、教育委員会（文化財保護課、歴史民俗博物館）

○会議概要

1. 開 会

2. 挨 拶

…開会にあたり井狩部長より挨拶
…出席委員と市の出席者の自己紹介

3. 部会長選任報告

…会長より塚本委員を部会長に指名いただいたことを報告

4. 審議事項

<後期基本計画の骨子について>

- ・ 2回目の今回と次回の3回目は専門部会に分かれ、後期基本計画の各施策について審議をお願いしたい。
- ・ 本日の資料は、前期基本計画をベースに、担当の各所属が前期基本計画策定からの5年間における社会情勢の変化や本市の取組状況などを勘案して、各施策の後期基本計画骨子として作成したもの。
- ・ 参考資料は、各所属に関係する部分について、どのような理由でどのように修正したかをまとめたものとなっている。
- ・ 本日は各部局や所属の職員も同席させていただき、より深い内容の議論ができればと考えている。

<今後の後期基本計画策定の進め方>

- ・ 今回の審議会（専門部会）でいただいたご意見は各所属へフィードバックし、アンケート結果等も反映して後期基本計画をブラッシュアップし、次回の審議会（専門部会）で改めて確認いただく予定。

○質疑・意見等

総合計画全般について	
委員	<p>前回の会議結果を公表されているが、計画に意見が反映されるようお願いしたい。総合計画は市役所全職員の行動指針になるものだと考えているが、あと5年で何を実現するのかという目的が明記されていない。それをどのように確認することも書かれておらず、疑問に思っている。目的達成のために職員が何を合理的に結びつけることができるのか、総合計画にはそうした機能を持たせることが大事ではないか。また、財政運営について何を実現するのか、必要な事業予算はどのようなのか。総合計画の根拠として示すものが必要ではないか。更に、人事運営の指針として、行政運営の健全化のために戦略的な人事運営の視点があり、その結果として人事評価によってやりがいのあるいきいきとした職場になるのではないかと。そして PDCA がその核になる必要があると思っている。先生はどのようにお考えになるかお聞きしたい。</p>
部会長	<p>→総合計画は自治体のこれまでとこれからを整理しながら動かしていくマスタープランであり、ある程度大きな話をせざるを得ないのは仕方がないと考えている。具体的に現場で動かしていく様々に細分化された施策を総合計画の中でしっかりと位置付けながら確実に実行していく必要がある。そのためにも PDCA サイクルは非常に重要になってくると考えている。</p>
事務局	<p>→総合計画は本市の最上位の計画であるため、どうしても全体的な方向付けになってしまい、手法や細かな施策を網羅するのは難しい面がある。そういった部分はぶら下がる各部局の計画で定める形となっている。総合計画ではめざすべき姿が最終的な到達点になるが、そこに向けて大枠のベクトルを記載しているものをご理解いただきたい。</p>
3-1 商工業の振興	
委員	<p>「産業用地の確保と事業所の立地促進」の取組では、具体的な方策が示されておらず漠然としており、お題目としてしか見受けられない。5年間でこうなるという市のプランを明記すべきだと思う。企業立地の助成制度については、他の自治体と比較して優位性がないと企業は参入してくれない。また、開発において野洲は条例等の規制でハードルが高いと言われている。野洲のこれからはどうなるのかを明記し、企業にも魅力があると感じてもらえることを書くべきではないか。</p> <p>「地域商業の基盤強化の支援」については、様々な取組が記載されているが、関係団体と一緒に汗をかいてイベントをするなら、市の予算措置が明確にならないとプランニングもできない。各団体に任せきりの事業なら、市の施策として記載すべきではない。市としてやって欲しい形があるなら、予算措置を講じて示してもらいたい。</p>
担当課	<p>→この施策には商工業振興基本計画がぶら下がっており、個々の取組は其中で記載している。今年度見直しを進めているところであり、関係団体にも委員として参画いただき、ご意見をいただく予定をしている。</p>
委員	<p>→別の計画の中で検討するならば、総合計画に示すものはもっと簡単なものにして、細部の取組や予算を結び付けられるようにしておけば良い。このような書き方では漠然としており、受け取った側も何をしたら良いのか分からない。直近では大津湖南幹線が開通し、野洲中主線の通行量が5割増えた。これまで国道8号や湖岸道路を走っていた車が市の中央部へ入ってくるようになった。これは商圈が広がったということだが、そういったことが記載されていない。駅前パークモールも大きなビジネスチャンスであり、そうした商業施設やビジネスビルは絶対に必要である。市民や企業も期待しており、総合計画には明記</p>

	すべきものである。そうしたことを示さないと実施する内容もまとまらないと考える。
委員	前回の審議会で、5年間で野洲は面白いまちになると思える計画にしてもらいたいと発言したが、そうした意見は反映されていないように感じる。全体的な方向性を示すのは分かるが、野洲駅や湖南幹線の記述もなく、5年経ってもそのままの現状と課題はこの内容で合っているのか。産業用地がないと書かれているが、農地を守り、自然環境との調和を図ることが企業誘致と整合するのか。商工業活性化の取組として、経営改革や後継者の育成が最優先すべきことなのか。まずは5年間の変化を踏まえて現状と課題を明確にしないと、それによって取組内容も変わってくるので、今回審議すべき内容なのか疑問に感じた。
担当課	→担当課では時代の変化を踏まえて変更を加えているが、委員の意見を踏まえ、部会長にもご相談しながら見直しについて検討したい。
部会長	→現状と課題の洗い出しと、取組によって何をしてどうなるのかというビジョンが見えるようにとの要望かと思う。そのような形でブラッシュアップしてもらいたい。
3-2 農林水産業の振興	
委員	一番の問題点は後継者だと思う。新規就農者は限られており、高齢者の担い手が今後5年間で何人減るのかということを見ると先行きは厳しい。計画倒れにならないように考えてもらいたい。
担当課	→担い手の高齢化が進んでおり、我々としても後継者の育成や支援を広げているが、難しいところもあるため、個人から組織として担い手を確保する方向で進めていきたいと考えている。法人化は進んできているが、個人の担い手である認定農業者で集積されている農地についても、集落等で守ってもらえるような支援をしていきたい。
委員	→集落営農も高齢化している。定年延長により70歳くらいまで働いてから集落営農に参加するのは無理がある。自分たちの土地を守るために頑張るという理念は分かるが、集落営農もいずれは駄目になるのではないか。これからの時代、自分たちの田んぼを自分が守るのはもう難しいのではないか。スマート農業だが、GPS付のトラクターも今は直進だけのものしかメーカーが作っておらず、推進はなかなか難しい面がある。
担当課	→我々も厳しさは感じている。今後10年で誰が担い手として農業をしてもらうのか、概略を地図に落とし込んだ地域計画を、令和6年度から各集落で作っていただいている。この計画をブラッシュアップしながら地域の担い手で農業を守っていただきたいと考えている。スマート農業についてはドローンが中心になっていると思う。トラクター等は耕作面積が広ければメリットもあると思うが、現状では手を出しにくいと感じている。先ほどの地域計画と併せてスマート農業の普及も図っていきたい。
委員	→市街地の開発により農地が減少していくが、そうした見通しを示し、それを踏まえた計画を考えてもらいたい。
担当課	→開発によって農地が減少するのは野洲市も例外ではない。農業を守る立場として優良農地はしっかりと守りつつ、市の政策として開発していく部分は市として判断をしていきたいと考えている。
委員	県の振興計画にも参画しているが、担い手問題は以前から常にある。いつも「農業の魅力を知ってもらう」で終わるが、それで農業の振興が図れるのか疑問に思っている。農業をやめる人が農機具や倉庫を次のやりたい人に継承するといったシステムが必要だと考えており、そこを繋ぐパイプを作らないといけない。市民と魅力を共有する取組として農業体験と言われるが、作業して食べて良かった、で終わるのではなく、人に食べて喜んでもらうことや、野洲の風景を作っ

	<p>いる仕事であるということをしかりと教える必要がある。アグリツーリズムとも言われるが、単純に体験して帰るだけでなく、農業の魅力を発信する立場としてそうした部分も検討してもらいたい。</p> <p>スマート農業もいつも言われるが、現状で必要なのか疑問に思う。農地を集約しないとメリットが出ないと言うなら、市として農業をしたい人を増やすためにどうすべきかも考えてもらいたい。</p>
担当課	→計画に記載している内容をしっかりと取り組んでいきたい。スマート農業についても地域計画を作っていく中で支援していきたい。
委員	<p>有機農業をやっているが、「農地、森林、水環境の良好な保全」の取組で市として支援してもらえればと思う。例えば緩効性肥料はプラスチックでコーティングされているため、農地がマイクロプラスチックだらけになる。有機農業は収量が上がらないことがネックだが、興味を持つ若者もいる。子どもの将来のため、食の安全を守るために支援するような取組をお願いしたい。</p> <p>また、農地を守ることも非常に大事である。自然環境を守るためにも農業施策への助成をお願いしたい。</p>
担当課	→有機栽培で完全無農薬のオーガニック米を 13ha で作られているが、除草作業等、多くの難しさがあると聞いている。また、県が推奨する環境こだわり米については県からの交付金がある。そうしたことも周知しながら協力をお願いしたいと考えている。
3-3 地域資源を生かした観光の振興	
委員	<p>野洲の魅力を知ってもらおうとあるが、市民も知らないのではないかと。知ってもらうために印刷物や SNS 等で発信するのが一般的だと思うが、それで市民が誇りや愛着を持つことにはならないと思う。本当に伝えたいなら観光物産協会に丸投げするだけではなく、プロの力も借りる等してやり方を変えていかないといけない。協会もまちづくりの法人化をするという意見もあったが、そうした方向性も決めていかないといけない。</p> <p>体験型の観光にしても、新たな視点で魅力を発信していかないと市民も魅力を感じない。やり方も含めて考えた方が良い。</p> <p>アンテナショップについては、予算が縮小している中で復活させるのか方向性をしっかり示してもらいたい。PR 拠点が必要なら予算をつけることも必要だが、駅前開発がどうなるかによっても変わってくる。</p> <p>インバウンドについてもやるなら方向性を明確にしてもらいたい。</p>
担当課	<p>→市の魅力を市外の人に知ってもらう前にまず市民に知ってもらうという点では、まだ知らない人も多いと思うが、魅力として感じていない場合は大きな問題である。新たな魅力として、これまでの寺社仏閣で歴史に触れてもらうだけでなく、農業体験や商業的観光というものも進めていく必要がある。これらの情報発信については、市長がトップセールスで Youtube 配信を行っているので、そういったものも活用して PR していきたい。</p> <p>物産協会の法人化については要望もいただいております、話し合いながら検討を進めていきたい。アンテナショップについては、駅前整備の中で担当課として意見は出していきたい。</p>
委員	→市長が頑張っていて動画配信されているのは有難いが、観光をトップセールスするのなら質も含めてそれなりの内容にしないといけない。
	法人化については彦根市の DMO 方式も含めて検討が必要だと思う。

委員	<p>事業者や市民団体との連携と書かれているが、実際にどんな取組がされているのか把握できない。また、湖南4市で野洲市は断トツに資源が豊富にあることは事実であり、魅力の再発見や観光資源の掘り起こしといった表現は不適當だと思う。観光資源を磨き上げることが必要だが、市内の方があまり知らない現状がある。教育の場でも野洲市にはこんな観光資源があるということを学習すべき。歴史民俗博物館という立派な建物があるが、磨き上げられているかというところではない。オープン当初は素晴らしい施設だったが、隣に収蔵庫ができてしまったのは残念だった。口コミが最大の観光 PR になるが、来られた人に満足してもらって工夫ができていない。行政で観光振興の予算が確保される必要がある。現在は観光産業に市民が関与できない雰囲気がある。計画に記載されている通り一遍の文言は野洲には合わないと感じており、もう一度内容を改めてもらう必要があると思う。</p>
3-4 歴史文化遺産の保全・活用	
委員	<p>博物館の現状だが、講義室の階段状の座席が壊れたままになっており、冷暖房も効かない。取組内容に企画展や体験学習と書かれているが、スタッフが少ないため非常に負担がかかっている。もう少し予算とスタッフをつけてもらえば更に充実したものが実施されると思う。銅鐸は野洲市の魅力の1つだと思う。銅鐸があるということは、大昔からこの場所が住みやすい場所だったということが言える。子ども達には日本一のものが見つかったというだけで終わらず、銅鐸を生かして「住みやすい街野洲」を PR してもらえればと思う。</p> <p>また、大きな神社の祭りは残っているが、地域での祭礼や神事はほとんどなくなっている状態である。そういった記録も博物館の研究紀要には掲載されている。そうした史実をもっと地域の皆さんに知ってもらいたい。地域で復活させるのは難しいが、博物館で蓄積された資料を地域の方に見てもらえるようにできればと思う。</p> <p>博物館や図書館でお金を儲けるのは難しいが、博物館を持っているのは野洲市の誇りである。友の会も高齢化が進み、人数も減ってきたが、野洲の良さを知ってもらいたいという思いで博物館と助け合って後世に伝えていく活動をしているので、是非予算措置をしてもらいたい。</p>
担当課	<p>→銅鐸を野洲市のシンボルにするという思いで運営にあたっており、皆さんと力を合わせてやっていきたい。お金やスタッフについては確かに足りないが、まだ工夫できる場所があると考えている。お金を集める取組としてふるさと納税やクラウドファンディングができないかと考えており、もっと多くの人に来ていただくことも考えている。</p> <p>指標については勉強会や企画展の人数も考えられるが、年間トータルで何人来られたかが最も分かりやすいと思う。</p> <p>博物館には過去の資料が沢山残っており、それらを市民に分かりやすく伝える使命も持っている。現在は地域のコミュニティが失われ、神事を守っていくことは非常に難しいが、博物館が中心となって残していく工夫を、友の会の皆さんと考えていければと思っている。</p> <p>観光分野ともコラボレーションやタイアップをしていきたい。役に立てることがあれば精一杯協力するのでご提案いただきたい。</p>
委員	<p>現状と課題の記載内容について PDCA での見直しがなされていないのが残念。歴史の分野でも商工会や観光物産協会のような団体が今後必要になってくるのではないかなと思う。</p>
担当課	<p>→PDCA の観点で実態に即した見直しをしたつもりだが、再度見直しをさせてもらう。歴史文化協会のような団体については、文化財保存活用地域計画の策定を進めている中で、市の取組に意見をいただいたり、取組を担っていただく協</p>

	議会を来年度頃に発足させる予定である。その取組にもご協力いただけると有難い。
委員	→そういった組織がないと意見も出ないし、委員として入ることで認識も変わると思う。行政のサポートをしながら施策を進めていってほしい。

5. 報告事項

<市民意向調査について>

- ・ 6月初旬に18歳以上の無作為抽出の市民4,000人にアンケートを送付し、6月末までに回答をお願いしている。
- ・ 今回はウェブ回答もできる形にしている。
- ・ 調査項目は、前回からの変化を確認するものに加え、前期の取組を評価いただくものや各所属が希望される項目を追加している。
- ・ 現時点では約4割の方に回答をいただいている。
- ・ 次回の審議会には集計と分析の結果を報告させていただく。

6. その他

<策定スケジュールについて>

- ・ 次回は9月頃にもう一度専門部会での開催を予定しているが、今回いただいた意見のほか、アンケートの結果や8月に開催予定の市民懇談会の意見も反映した後期基本計画の案を改めて確認いただきたい。

7. 閉会